

北海道ニセコ町 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年	2022年	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）
1	地域経済牽引事業の新規事業件数【8.3,15.1】	2020年12月 3件	2021年 4件	2021年 4件		2030年 7件	57%
2	先端設備等導入計画の認定件数【9.4,9.b】	2020年12月 2件	2021年 3件	2021年 3件		2030年 12件	25%
3	第5次ニセコ町総合計画における「住民参加」「情報共有」の満足度【16.6】	2019年度 49点	2019年度 49点	2019年度 49点		2030年 70点	0%
4	第5次ニセコ町総合計画における「連携によるまちづくり」の満足度【17.7】	2019年度 52点	2019年度 52点	2019年度 52点		2030年 75点	0%
5	環境モデル都市アクションプランに基づく温室効果ガス総排出量【7.2,7.3,7.a】	2015年度 61,723 t-CO2	データなし	データなし 2023年調査予定		2030年 34,565 t-CO2	-
6	SDGs未来都市提案に基づくニセコ生活を象徴する生活空間の形成による成果の町内横展開【11.3,11.7,11.b】	2018年 0件	2021年 0件	2021年 0件		2030年 1件	25%

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況（2021年～2023年）

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度 （%）
1	「経済」「社会」「環境」の三側面をつなぐ統合的取組	総人口の社会増減（2020年度～2024年度の5年間累計）	2018年度 490人	2021年度 -421人	2022年度 -251人		2023年 500人	-7410%
		NISEKO生活・モデル地区構築事業における住民対話参加のべ人数	2019年度 204人	2021年度 306人	2022年度 343人		2023年 400人	71%
2	地域連携による雇用創出及び人材育成の取組	しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプラン推進事業による「季節雇用と担い手のマッチング」の町内件数	2019年度 1件	2021年度 3件	2022年度 0件		2023年 3件	-50%
3	農地の再編整備を進め、農畜産物のブランド化を進める取組	道の駅「ニセコビューラザ」の直売所でのニセコ町産農産物の売上	2019年度 291百万円	2021年度 302百万円	2022年度 331百万円		2023年 305百万円	286%
4	まちづくり基本条例に位置づけた住民参加・情報公開を継続・向上させる取組	第5次ニセコ町総合計画における「住民参加」「情報共有」の満足度	2019年度 49点	2019年度 49点	2019年度 49点		2023年 60点	0%
		第5次ニセコ町総合計画における「連携によるまちづくり」の満足度	2019年度 52点	2019年度 52点	2019年度 52点		2023年 70点	0%
5	環境モデル都市アクションプランを推進	環境モデル都市アクションプランにおける温室効果ガス総排出量	2015年度 61,723 t-CO2	2015年度 61,723 t-CO2	2015年度 61,723 t-CO2		2023年 61,340 t-CO2	-
		象徴的新庁舎への市民参加型などによる段階的エネルギー技術導入	2020年度 0件	2021年度 0件	2022年度 0件		2023年 1件	0%

(3) SDGs未来都市計画推進のKPI達成に係る評価及び課題等

経済面は、環境や景観を大切にする本町の姿勢に共感いただき、海外展開もしている事業者の東京からの本社移転などを含め、雇用・経済の好循環が図られている。今後は観光目的税を導入するなど、更なる域内循環の仕組みづくりが必要な状況となっている。

社会面では、ニセコ町のまちづくりの核である住民自治の実践について、官民連携のまちづくり会社と共に様々な課題解決に取り組み、SDGs生活・モデル地区「ニセコミライ」の住民参加型の取組によって町民の満足度も高めていきたいと考えている。

環境面では、気候非常事態宣言（ゼロカーボン宣言）を行い、より一層の取組強化を進めている。サステナブルを基軸とした事業展開や環境配慮型の役場庁舎を建設したことで、省エネ建築の波及効果が見られてきている。今後は一般家庭への波及に向けたアプローチが今後の課題である。

特に達成度が乏しくなかった「総人口の社会増減」、「季節雇用と担い手のマッチング」については、コロナ禍による影響が大きいものの、回復の兆しが見える状況下で町内で不足する住宅施策等を行ないながら、組織横断的な取組を進めていく。